

コラム

ドラマ「恋です!ヤンキー君と白杖ガール」

主人公・ユキコが教えてくれた、あなた自身の“頑張ればできること”



今秋放送されていたドラマ「恋です!ヤンキー君と白杖ガール」、みなさんはご覧になりましたか？

このドラマは、広島県在住の女性漫画家うおやまさんが描いた漫画「ヤンキー君と白杖ガール」が原作です。うおやまさんはお父さんが視覚障害で弱視だった経験をきっかけに、「もっと弱視のことを知ってほしい」という思いでこの漫画を描いたそうです。そんな原作者の思いが反映されて、視覚障害者についての描写が正確で詳しいと評判です。

1. 第4話「はじめてのポテト」から

光と色がぼんやり分かる程度の弱視の盲学校生ユキコと、喧嘩っ早いけど純粋な不良少年森生^{もりお}が出会ってのドタバタラブコメディですが、「こんなことありそう。」、「こんなことあるかも。」という場面があります。そのいくつかで、みなさんがユキコだったらどう感じるか、どう行動するかを考えながら読んでもらえればと思います。

シーン1

森生が就職したことに刺激を受けたユキコは、森生と対等でありたいと、自分も働きたいと思います。そこでよく行くスーパーにバイトの面接に行きます。スーパーの店長は弱視の見え方についても理解しようとするとてもいい人でしたが、「あなたにもできる仕事があるかもしれない。本当だったら雇ってあげたい。でもうちのような小さいところは経営が厳しくてね。普通に働いている人達と同じ給料分の仕事をしてもらわないと正直きつい。せめて他に何か、あなたを雇うことのメリットがあればいいんだけど。」と言われ不採用になります。

一般企業では、このような対応をするところがまだ多いのではないのでしょうか？ この店長はとても好意的な対応をしてくれた方だと思います。障害者雇用枠を活用してもらったり、障害者についてもっと理解してもらわなければならないのですが、こういう現実も確実にあるでしょう。ユキコも、この後担任の先生から「視覚障害者がバイトをすることはハードルが高い。それが現実。」と言われます。しかし、「だからこそ何がやりたいのかが大事」とも言われました。

シーン2

担任の先生から「やりたいことは？好きなことは？」と問われたユキコは、よく通うお気に入りのハンバーガーショップに面接に行きます。リーダーの人は困った表情をしますが、店長はあっさり「採用!!」してくれました。実際にバイトが始まると、服装のチェックを鏡を見ながら行うことが難しいです。マニュアルに目を通すよう言われても、手持ちのルーペで見ながらとても時間がかかります。重なった紙コップを運ぼうとして落としてしまいます。重ねてあるお盆にぶつかって床にばらまいてしまいます。急に開けられた冷蔵庫のドアをよけようとして人にぶつかりポテトを落とさせてしまい、周りの人に迷惑をかけてしまいます。「危ないから下がってて!」と言われます。また、控え室から、次のような話し声が聞こえてきます。「まさか時給うちらと同じじゃないよね。」「いるだけでお金もらえんとかあり得ないんだけど。」「お店は障害者雇うと国からお金もらえるから。障害者も働ける優しいお店ですって、PRにもなるでしょう。」「猫の手も借りたいくらいなのに、こんなこと言いたくないけど足手まといでしかないよね。」

残念ながら、このようなことは現実でも起こりがちだと思います。みなさんがユキコの立場だったら、この後どうするでしょうか。

- ・「こんな思いまでして働かなくていい」と辞める。
- ・障害者を雇うことは企業の義務なので、支援してくれる人を付けてもらう。
- ・できる仕事だけをやる。
- ・その他・・・

ユキコはこの後次のように行動します。

ユキコの行動

鏡を見なくても服装が整えられるよう家で練習します。早めに出勤し、厨房の中の配置を確かめながらスマホに録音します。休憩時間にそれを聞いて配置を確実に覚えます。

マニュアルを家に持ち帰り、何度も読んで暗記します。その姿を見てもらえて、ポテト作りを任せられるようになります。最初は時間もかかり失敗もしますが、徐々に要領が分かり一人でポテトを作ることができました。

この後ユキコはポテトを一人で作ることに慣れ、忙しい時間にはあらかじめ多めに作っておくなどの工夫もできるようになります。オーダー表が読めずにオーダーがたまってしまったときは、オーダー表の文字を大きくし、フォントも見やすくしてもらいオーダーをためることもなくなりました。一人のためにオーダー表の文字を変えることは反対する人もいましたが、みんなが見やすくなり、ミスが無くなるという良い結果になりました。

2. 「できること」と「できないこと」

「できること」、「できないこと」には次の三つがあります。

- ① 頑張らなくても普通にできること
- ② 頑張ればできること
- ③ 頑張ってもできないこと

③のどんなに努力してもできないことというのが、残念ですがあります。例えば視覚障害者にとって、「清掃」の仕事の「汚れを見付ける」ことはどうしても見落としが出てしまいます。また、体を動かす仕事で、晴眼者と同じ「速さ」を求められることはとても難しいです。それらのことは仕方のないことですね。しかし②の、努力すればできることもあります。逆に努力しなければできないことでもあります。紙コップの入っている袋がどのような形状か分からずに持てば落とすこともあります。形状を理解すれば落とさずに持ち運ぶことができます。部屋の形や室内の配置を知らずに移動をすれば、ぶつかることもあります。配置を理解してしまえば、ぶつかることなく移動することができます。周りの人も、物は動かさない、動かしたときには知らせる、急に動かないなどの協力もあるとより安全です。タッチパネルはどこを押せばいいか分からないものもありますが、目印を付けてもらうことで使えるようになります。経験を積むことによって、②の「頑張ればできること」が①の「頑張らなくても普通にできること」になることも多いです。自分の①、②、③を考えると「自分のできること」が分かってきます。みなさんの①、②、③はなんてしょうか？

自分の「できること」がわかれば「やりたいこと」、「やるべきこと」との接点を見つけて進路の方向性を決めることができますと言われます。「やりたいこと」と「やるべきこと」についてもいろいろ考えることができますので、また別の機会でお伝えできればと思います。

3. おわりに

「恋です!ヤンキー君と白杖ガール」、原作者のうおやまさんは「障害者の頑張る姿に感動するのではなく、自分にも関係あることと感じてほしい。」と語っていました。そのようにみなさんに観てもらえるといいのかなと思います。それにしても、主人公ユキコの“失敗しても挫けずに頑張る姿”というのは魅力的ですね。